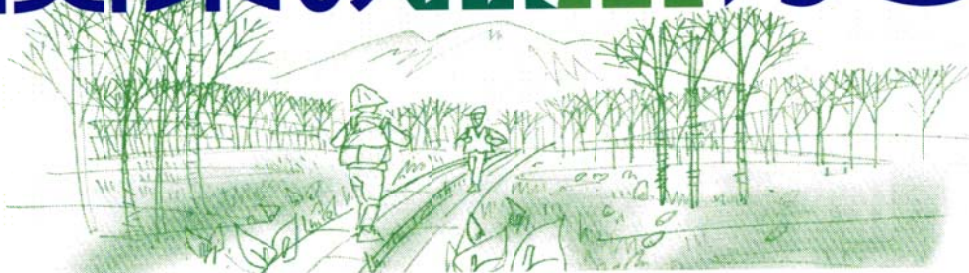


平成23年2月1日

第83号

# 関東の森林から

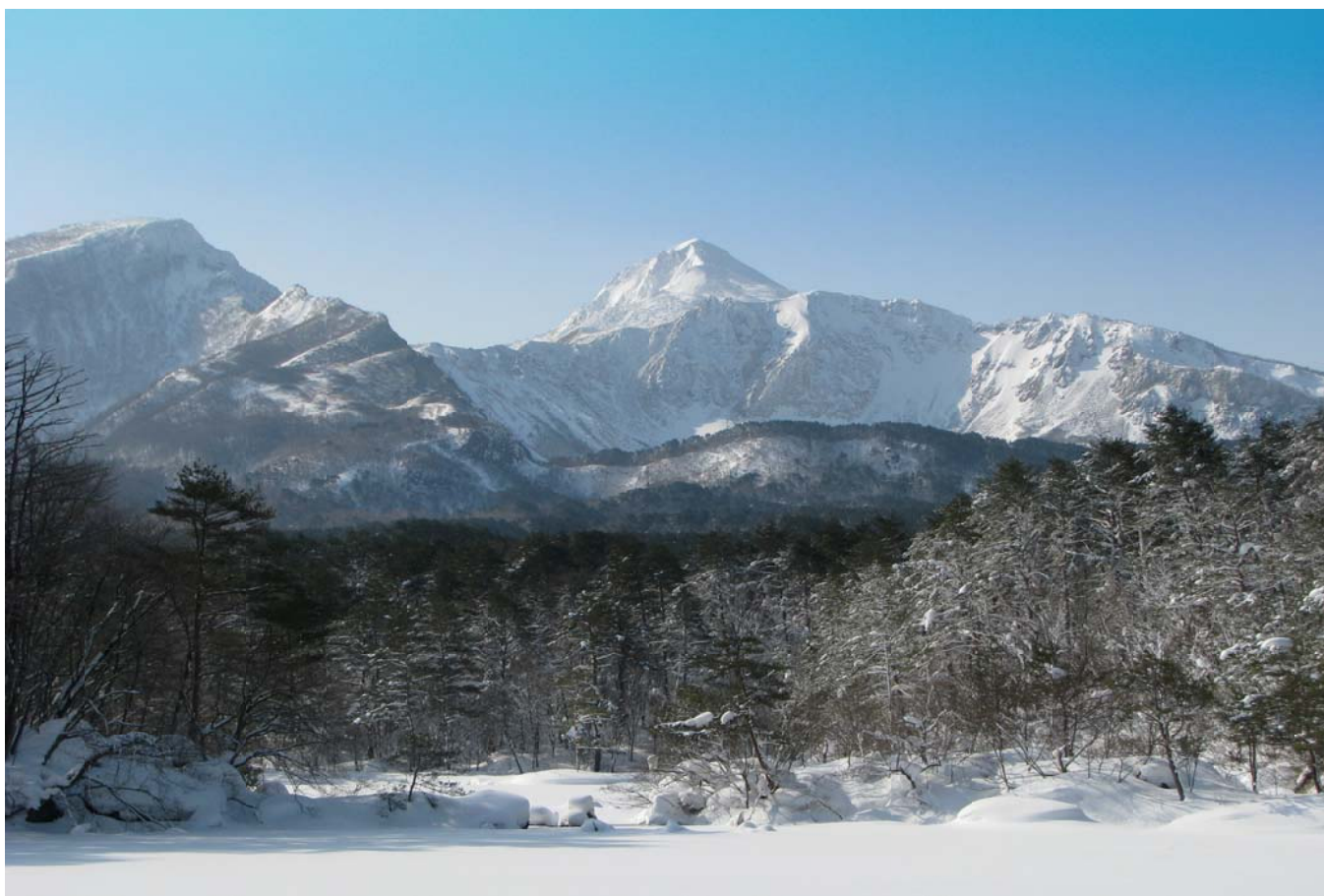


国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



厳冬の静寂「磐梯山・五色沼湖沼群（毘沙門沼）」（福島県北塩原村）  
（撮影者：会津森林管理署 須藤 秋夫）

国産材（100%基材）複合フローリング開発へ向けて試験施工

東京事務所

私と国有林 「自然の中で多くの感動を体験」

静岡県立富士山麓山の村 所長 坂本 陽子 氏



2011・国際森林年



表裏南洋材単板・中芯スギ(5プライ)試験施工

江東区東陽にある当事務所の公務員宿舎では、日本複合床板工業会が、国産材100%の基材を使った複合フローリングの開発に向け、林野庁協力の下、試験施工したので概要を紹介します。

木造住宅やマンション等の床材の多くを占める複合床板(合板等の基材にツキ板等で化粧したフロア材)については、その基材の多くが南洋材合板であり、国産材合板等の原料転換が製造メーカーにより検討されていますが、スギ等を持つ「柔らかい」「節がある」といった特性から、表面性や耐傷性等に課題があり、一部を除き、製品化には至っていない



**国産材(100%基材)  
複合フローリング開発へ向けて試験施工**

東京事務所

状況にあります。一方、大手住宅メーカーでは国産材の利用が進んできており、環境面からも床材の国産材志向があります。クレームの多い部材であり、使用実績がない国産材複合床板の採用については慎重なのが現状です。

今回は基材となる合板部が、それぞれ全層スギ(国産材100%5プライ)1種、表裏南洋材単板・中芯スギ(5プライ)が単板厚別に2種、表裏南洋材単板・中芯スギ(7プライ)1種の計4種類を



林野庁長官視察 皆川林野庁長官(左から三人目)、安藤東京事務所長(左から二人目)

### 床材構成断面



全層スギ(5プライ)



表裏南洋材単板・中芯スギ(5プライ)

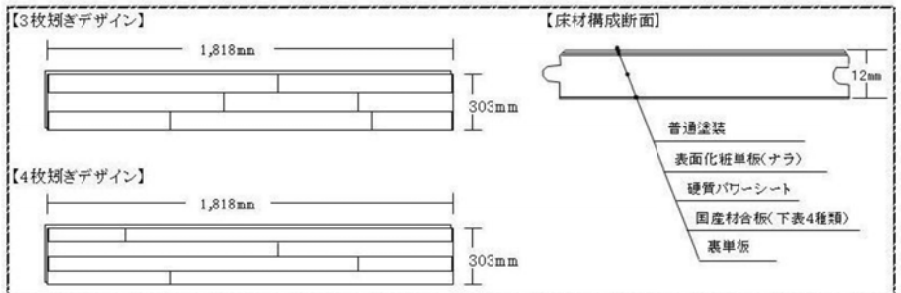


表裏南洋材単板・中芯スギ(7プライ)

使用しました。施工段階では、表裏にスギを採用した試作品では一部ですがスギ特有の「節・杢目」が浮き出るといった結果が出ていますが、施工後は定期的(冬場の乾燥を経た毎春等)に経年変化等を観察していきます。

昨年12月には、皆川林野庁長官が同宿舎の視察に訪れ、日本複合床板工業会会長から説明を受け、「この分野への期待は大きい。国産材の利用拡大に向け、今後とも製品開発に頑張っていたください」と期待の言葉がありました。

### 床材仕様



### 基材条件

国産材合板の種類	施工部屋	色調	デザイン
①オール杉 5ply	102 DK 401 元和室 402 元和室	ダーク	3枚刻ぎ
②F/Bメランティ コア杉 5ply A*	101 DK 301 元和室 302 元和室	ミディアム	3枚刻ぎ
③F/Bメランティ コア杉 5ply B*	- 101 元和室 201 元和室	ミディアム	4枚刻ぎ
④F/Bメランティ コア杉 7ply	- 102 元和室 202 元和室	ダーク	4枚刻ぎ

\* AとBは、5plyを構成する単板厚が異なります。



**ヤマビルの被害軽減に向け  
赤谷の森で落ち葉掃き**

赤谷プロジェクトでは、毎月、第一土・日曜日を「赤谷の日」と名付け、赤谷の森にある「いきもの村」を活動拠点として、サポーターと呼ばれるボランティアの方々が様々な活動を行っています。

平成22年は、「より地域とつながろう」をテーマに、その活動の一つとして、ヤマビルの被害軽減のための実験を行いました。

ヤマビルは、晴天時には落葉の下などに潜伏し、ヒトを始めとする動



赤谷の森で落ち葉掃き

**環境教育WGプログラム  
作成に向け現地検討会を実施**

赤谷プロジェクトでは、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める上で、7つの分野

これからも、持続的な地域づくりという赤谷プロジェクトの目的達成に向け、地域の方々のニーズを踏まえた取組を続けていきたいと考えています。

物が接近すると、表に出てきて取り付き吸血するやっかいな生物で、振動や熱、二酸化炭素によって動物の接近を感知するといわれています。実験では、落ち葉を放置した区域と除去した区域を設定し、それぞれの場所に数名が5分間足踏みをする事により、長靴に近い近づいてきたヤマビルの数を数えるというものです。その結果、落ち葉を除去した場所の方が、生息数が少ないことが明らかとなったため、この成果を活かす活動として、12月5日(日)、いきもの村内と付近の散策路で落ち葉掃きをサポーターを始めとする関係者21名で行いました。

ヤマビルの活動は、冬期は一旦落ち着きますので、今すぐに取組の効果が現れるわけではありませんが、春には、今回の取組によってヤマビルの生息数が減少し、被害が軽減されていることを期待しています。



林道脇の岩も大事な教材の一つ

でワーキング・グループ(以下「WG」とします。)を設置し、様々な調査や取組を行っています。その中の一つに、これからの環境保全活動を担っていく子どもたちや指導者を育成することを目的とした環境教育WGがあります。

12月21日(火)、赤谷の森の小出俣エリアにおいて、座長である(財)日本自然保護協会常勤理事の横山隆一氏をはじめとするWGメンバー8名による、環境教育プログラム作成のための現地検討会を行いました。

小出俣エリアは、自然林や人工林、二次林、溪畔林など様々な森林の様子を見ることができるとは、人工林から自然林に戻すための試験地や炭窯の跡など、環境教育の研究・実践の場として利用しています。

赤谷プロジェクトの普及と赤谷の



体験してみることも教材作りには重要

自然を紹介しながら、自然の恵みを学ぶことのできるような教材の作成のため、実際に見ることが出来る「もの(物質)」や「こと(仕組み)」を探すこととし、今回は冬の素材として、オオムラサキの幼虫探しなどを行いました。

季節によって見ることが出来る素材と年間を通して見ることが出来る素材とに分け、徐々に情報を蓄積することから始めています。

次回は、雪が溶ける4月又は5月頃に再び現地検討会を開催し、異なる季節の素材を蓄積することにより、多様な要請に対応できる環境教育用教材の完成に向けて取り組む予定です。



県立富士山麓山の村 生活棟と富士山

日本一高く雄麗な富士山の南麓1合目、標高1,100mの富士箱根伊豆国立公園内にあります「静岡県立富士山麓山の村」は、平成元年に開所しました宿泊訓練施設です。全国的にもめずらしい、学校教育法に規定されている学校教育施設であり、青少年教育施設とは異なります。北には眼前に迫る富士山、東に愛鷹山、西に南アルプス、南には駿河湾が一望できます。

利用者の受入れは4月から10月までとし、寒さが厳しくなる11月から翌年3月までは、越冬準備や施設・

# 私と国有林

## 自然の中で多くの感動を体験

静岡県立富士山麓山の村 所長 坂本 陽子



講師を招いての自然観察

設備の点検・整備等を行います。自然の中で集団生活をするにより社会性や責任感等を養おうと、幅広い年齢層の方々が利用しています。平成22年度の延べ利用者数は、30,778人でした。

山の村は、活動エリア500畝、建物敷地12畝の国有林の中に、18棟の建物が点在しています。建物はすべて木造で、周辺の森林環境に調和しています。利用者が宿泊する生活棟は10棟あり、最大500人収容することができま



ハイキングを楽しむ子供たち

風の個性的な形をしており、自炊をするための調理室や竈・暖炉があり、利用者に人気です。また、利用者が荷物を運ぶときには、リヤカーを使用するのですが、皆で力を合わせ、楽しそうに行っています。自炊や暖炉等で使用する薪は、勤労体験活動で間伐した木を使用します。薪作りも行います。

山の村には指導主事が配置されています。利用者が独自の活動計画を立案し、指導も行うことになりませんが、利用者だけではできない活動もありますので、所員や外部専門講師が、活動のサポートや技術指導を行います。緑いっぱい森林の中の勤労体験活動やハイキング等の野外活動は、とても良い思い出となっているようです。

利用者が安心して自然体験活動を行



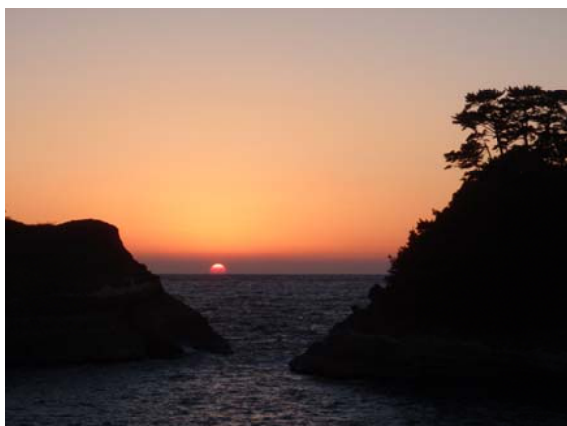
ウォークラリーコースの点検

野生の動物と出会い、鳥のさえずりを聞きながら、国有林の大自然の下、集団生活をしながら、体験活動した後の利用者は、輝いています。日常生活から離れ、美しい自然の中で、友達と協力して生活し、いろいろな体験をすることにより、自信を持つことが出来たのだと思います。

これからも、たくましく心豊かな人間に成長するために、山の村で多くの感動を体験していただきたいと思

# 森づくりの最前線

伊豆森林管理署 松崎森林事務所 森林官 鈴木 英樹 えいぎ



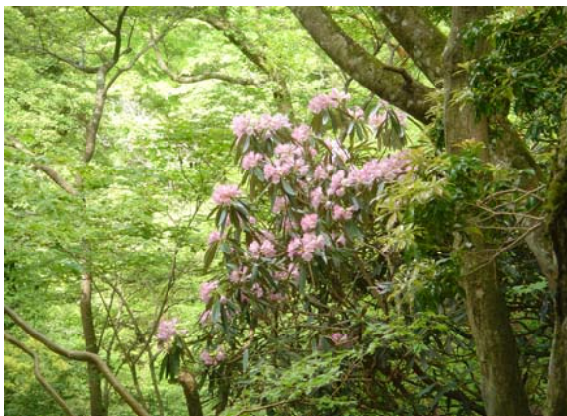
西伊豆町の夕陽

私の勤務している松崎森林事務所は、静岡県伊豆半島、駿河湾側（西伊豆）と太平洋側（南伊豆）に位置し、松崎町、西伊豆町、南伊豆町の3町を管轄しています。

周辺には景勝地の堂ヶ島を始め、石部、岩地、雲見海岸があり、海の透明感や景色も最高で、夏は海水浴やサザエ祭り、海賊料理祭り、秋からは伊勢エビ祭り等で賑わいます。また、西伊豆町の夕陽は「夕陽日本一宣言」されているとおり、海に沈む太陽はその美しさに圧倒されます。

当事務所では仁科峠から長九郎山周辺に位置する国有林約2,926㍍と官行造林地約277㍍を管理しています。長九郎山（標高995㍍）は5月から6月にかけて、2種類のシャクナゲが咲き、登山途中に京丸シャクナゲ、山頂付近には伊豆地域固有のアマガシシャクナゲが約2千本自生し綺麗な花を咲かせます。シャクナゲ目当ての登山者が多く、山頂にある展望台では、シャクナゲと富士山を眺め楽しんでいる様子が見られます。

当事務所管内の人工林率は約8割を占めていますが、最近では、スギなどを植えてもシカによる葉や樹皮の被害が後を絶たない状況にあります。このためシカ柵の設置や造林木に保護資材を巻き付けて対応しているところですが、シカも学習能力が優れているのか、最近では幼齢木は倒されて幹先端の樹皮まで被害を受けるようになってきました。



京丸シャクナゲ

伊豆半島にはシカが約2万4千頭生息していると推定され、保護管理計画では毎年7千頭の捕獲を目標にしていますが、平成23年3月には県下で初めて伊豆市で「食肉加工センター」が運用される予定であり、引き続き関係機関と連携を図りつつシカ対策を講じていきたいと考えています。

また、平成22年9月3日に、静岡県知事・独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター関東整備局長・関東森林管理局長との3者による「ふじのくに静岡の森林・林業の再生に関する覚書」が締結されました。

これに基づき、静岡県賀茂農林事務所長・静岡県水源林整備事務所長・伊豆森林管理署長との3者により「伊豆地域森林整備推進協定」を締結し、関東森林管理局管内で初の取組となる「森林共同施業団地」を設定しました。

この施業団地は、下田市及び賀茂郡松崎町の県営林292㍍、水源造成事業地110㍍、国有林156㍍の計558㍍が対象となっており、国有林・民有林が連携して一体的に路網を整備し林業機械の導入等を容易にすることにより効率的な森林整備等を行っていくこととしています。

森林官として、これまで以上に地元との連携を密にして国有林を適切に管理・運営していきたいと考えています。



被害を受けた幼齢木



伊豆地域森林整備推進協定調印式

# 管内の百名山「筑波山」



筑波山遠景

筑波山は、茨城県の八溝山系の南端部に位置し、山頂部は、西側の男体山（標高871㍎）と東側の女体山（標高877㍎）からなる山です。

古くから、その美しい姿は「西の富士、東の筑波」と言われ、日本百名山、日本百景に挙げられており、山頂からは関東平野が一望でき、天気の良い日には、遠く富士山を望むことができます。



女体山から関東平野を望む

筑波山は、都心から比較的近く、常磐自動車道、つくばエクスプレスなどの交通アクセスも整備されています。また、山頂への登山用としてのケーブルカー、ロープウェイがあり、子供から高齢者まで容易に登山でき、下山時の登山道沿いには、「がま岩」や「弁慶の七戻り」などの奇岩が多くあり、登山者を楽しませてくれます。

また、麓から頂上へは多くの登山ルートがあることから、健脚の登山者も多く訪れます。

山頂の男体山と女体山には、筑波山神社の本殿が祭られ、中腹には筑波山神社拝殿があり、多くの参拝者が訪れています。



筑波山神社拝殿

筑波山全体の森林概況は、東側の中腹から山頂付近までが国有林で、西側は筑波山神社の社有林となっています。

筑波山全体の植生は、中腹まではスギやヒノキが見られ、標高約600㍎から山頂付近までは、ブナやシデ類など広葉樹の天然林で占められています。

また、山頂部のブナ林は、学術的にも貴重な植生として存続させるため、茨城県等による調査が進められています。

関東平野に一つ突き出た筑波山は、茨城県における自然のシンボルとして、また、気軽に登山が楽しめる国民の山であり財産です。

茨城森林管理署は、この自然を後世に残していけるように、これからも管理・保全に努めていきたいと考えています。



国有林内のブナ林

(茨城森林管理署 広報広聴連絡官)

発行所 関東森林管理局  
編集 総務課  
TEL (027) 210-1158  
FAX (027) 210-1159

皆様に関心しやすいブログにしていきたいと考えておりますので、ご意見等がございましたら、当センターまでご連絡ください。  
E-mail: akaya\_postmaster@rinyamaff.go.jp



赤谷森林環境保全ふれあいセンターでは、赤谷プロジェクトの活動の一環として、ホームページに「赤い谷のブログ」プロジェクトの現場より」の掲載を始めました。  
赤谷プロジェクトの今後の出来事や赤谷の森で出会った動植物などについて、写真と合わせてお届けいたします。  
http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/akaya/photosoukou.html

赤い谷のブログ  
プロジェクトの活動から

赤い谷のブログ  
プロジェクトの活動から

お知らせ